第４章　各種ニーズ調査・利用実態調査の分析

１）各種調査の概要

（１）市民アンケート調査	
対　象	16 歳以上の市民（市内在住）2,000 名
期　間	配布：2022 年 10 月 13 日（木）～ 返送締切：2022 年 10 月 27 日（木）
方　法	郵送配布、郵送・Web 回答併用方式
回収数	郵送：864 票、Web：105 票、回収率：48.5%
（２）バス利用者アンケート調査	
対　象	・ふれんどバス（抽出便(1 時間に 1 便以上の実施)） ・くるくるバス（全４コースの全便実施）
期　間	配布：平日 2022 年 10 月 18 日（火）、休日 2022 年 10 月 23 日（日） 返送締切：2022 年 10 月 31 日（月）
方　法	バスの利用者へ手渡し配布（いずれかの調査日で 1 人 1 票）、郵送回収
回収数	・ふれんどバス配布数：平日 329 票　休日 128 票　合計 457 票 回収数：平日 48 票　休日 14 票　合計 69 票（受取日不明を含む） 回収率：平日 14.6%　休日 10.9%　合計 15.1% ・くるくるバス配布数：平日 124 票　休日 85 票　合計 209 票 回収数：平日 43 票　休日 19 票　合計 78 票（受取日不明を含む） 回収率：平日 34.7%　休日 22.4%　合計 37.3%
（３）バス乗降調査	
対　象	・ふれんどバス（抽出便(1 時間に 1 便以上の実施)）の全利用者 ・くるくるバス（全４コースの全便実施）の全利用者
期　間	②バス利用者アンケートと同時に実施
方　法	バスの利用者乗車時に手渡し配布（乗車ごとに 1 人 1 票）、降車時に回収
回収数	ふれんどバス：平日 416 票　休日 175 票　合計 591 票 くるくるバス：平日 226 票　休日 180 票　合計 406 票
（４）交通事業者ヒアリング調査	
対　象	市内で公共交通を運行する鉄道・バス・タクシー事業者
期　間	2022 年 11 月 24 日（木）、25 日（金）、29 日（火）
方　法	質問シートを送付したのち、面会してヒアリング
（５）地区ミーティング	
対　象	市内で活動する団体の代表・役員、地区代表（意見を集約）
期　間	2022 年 10 月 6 日（木）中央地区、11 日（火）新川地区、17 日（月）棚尾地区、 18 日（火）旭地区、28 日（金）西端地区、11 月 1 日（火）大浜地区
方　法	事前質問制、市三役・各部長が出席し質問へ回答

2）調査結果

※各図中で枠取りは説明文の根拠部分を示しています

（1）市民アンケート調査

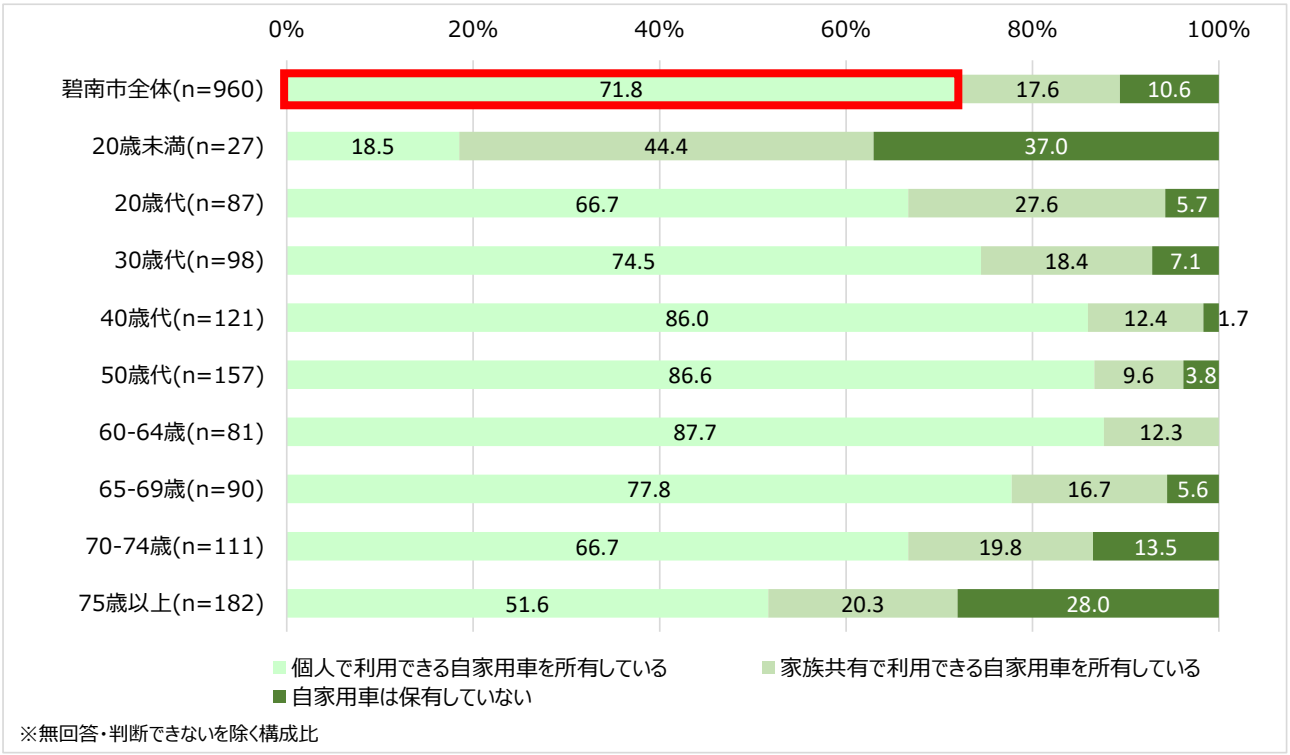
①自家用車の保有状況と普段の外出で利用する移動手段

「個人で利用できる自家用車を所有している」人の割合は 71.8%となっており、「家族共用で利用できる自家用車を所有している」人を含めると 89.4%となります。

20 歳代以下や 70 歳以上では「個人で利用できる自家用車を所有している」人の割合が、碧南市全体を下回っています。

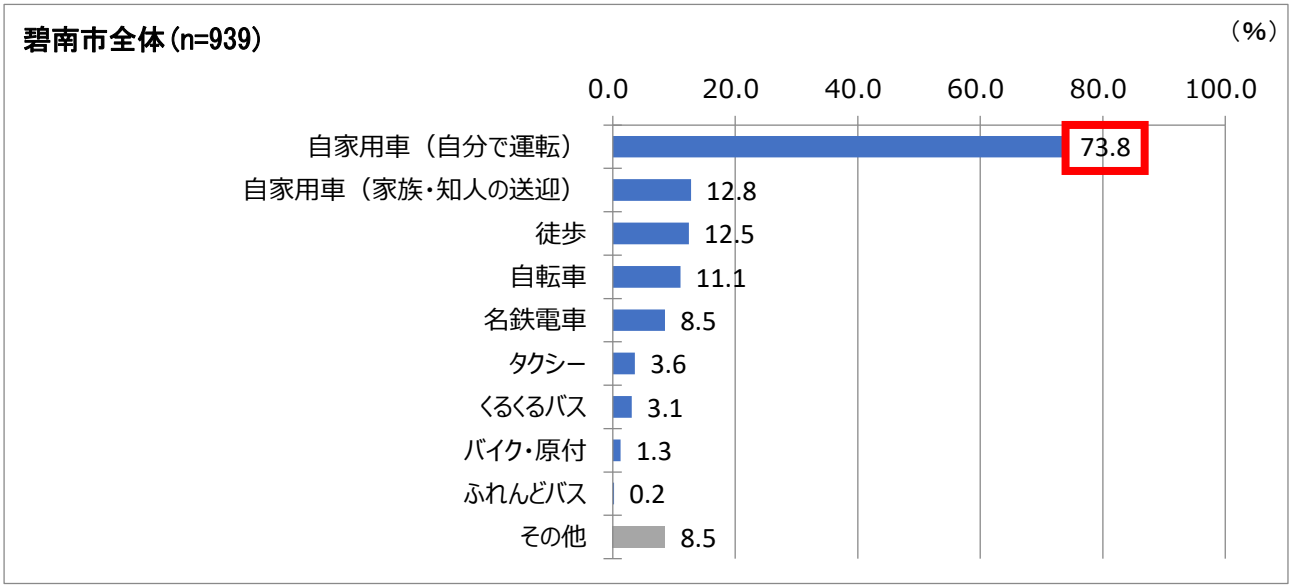
また、自分で運転する自家用車を普段の外出で利用する人の割合は 73.8%です。

図 4-1　自家用車の保有状況



※無回答・判断できないを除く構成比

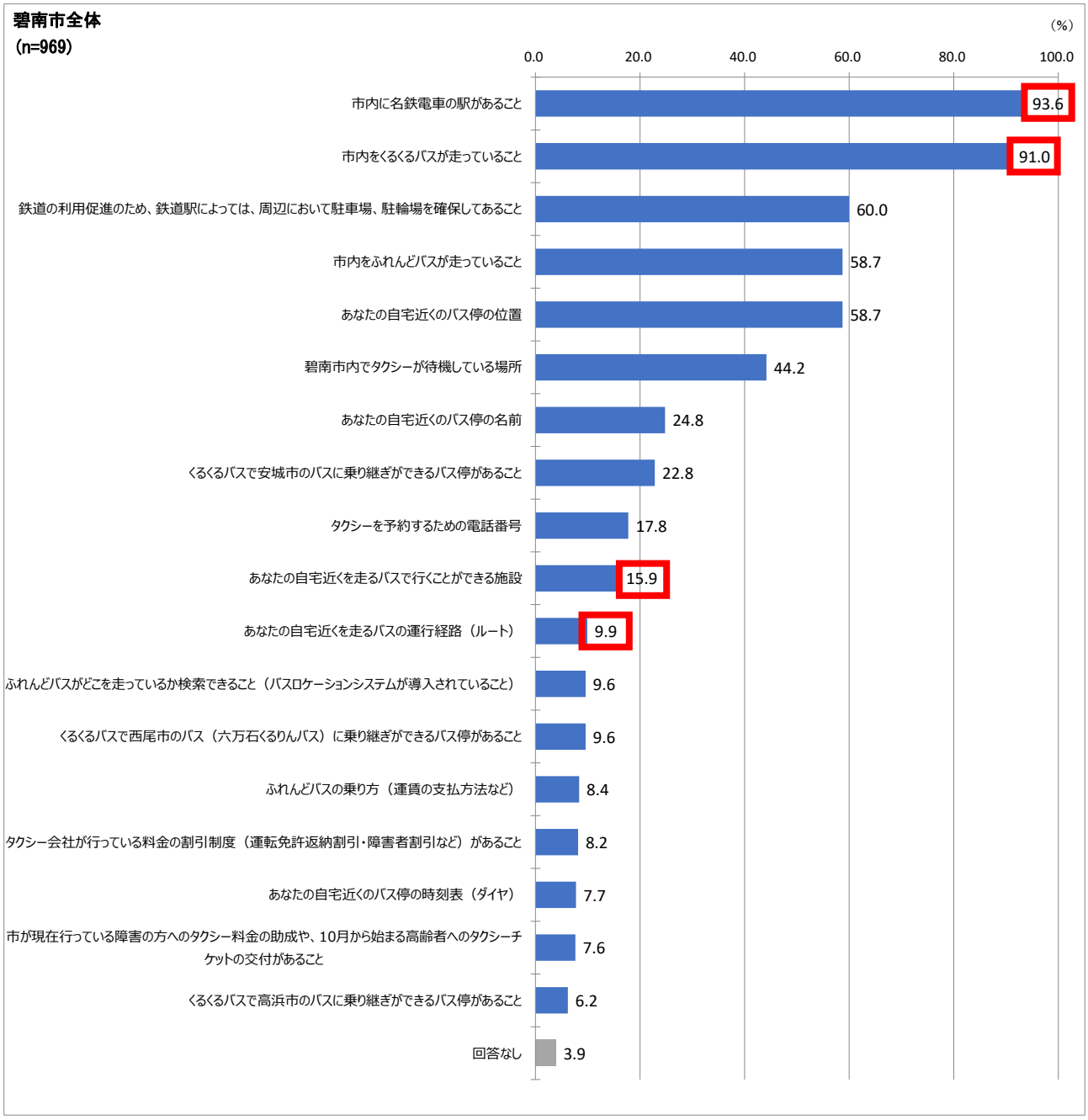
図 4-2　最も頻度の高い外出目的で利用する移動手段



②公共交通の認知度

名鉄電車の駅があることの認知度は 93.6%、くるくるバスの運行に対する認知度は 91.0%と高い一方で、バスサービスの内容である、自宅近くを走るバスで行くことができる施設の認知度は 15.9%、自宅近くを走るバスの運行経路は 9.9%となっています。

図 4-3　公共交通についての認知度

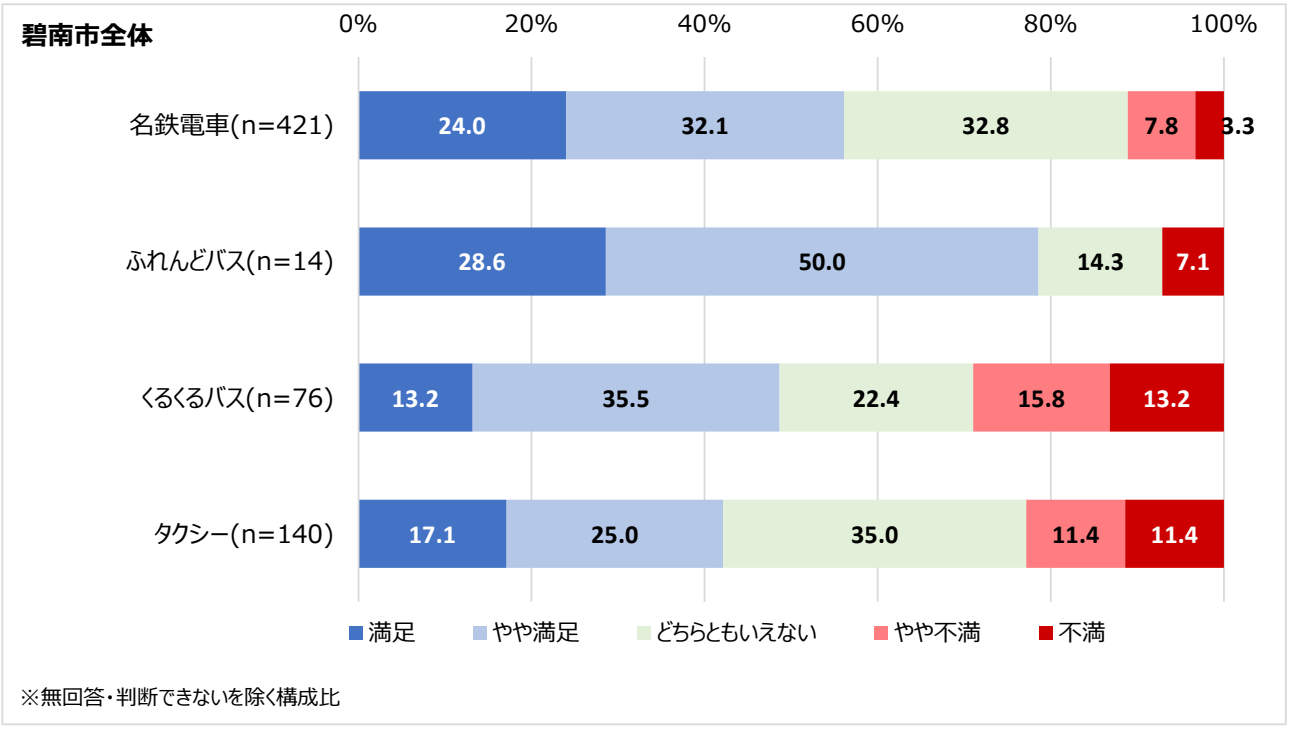


③公共交通の満足度と期待する役割

各公共交通を年に数日以上利用している人の満足度は、どの公共交通も満足度（満足＋やや満足）が不満割合（不満＋やや不満）を上回っています。

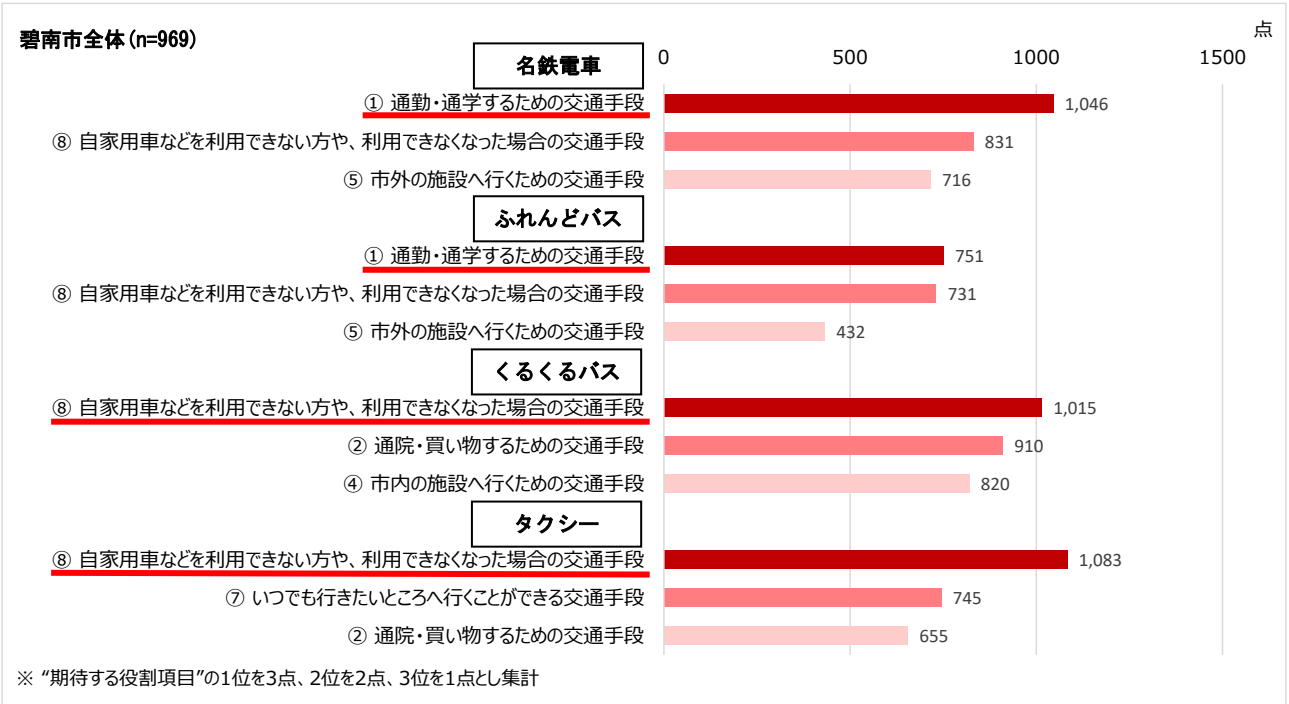
また、名鉄電車やふれんどバスでは「通勤・通学するための交通手段」、くるくるバスやタクシーでは「自家用車などを利用できない方や、利用できなくなった場合の交通手段」として期待されています。

図 4-4　公共交通の満足度



※無回答・判断できないを除く構成比

図 4-5　公共交通に期待する役割



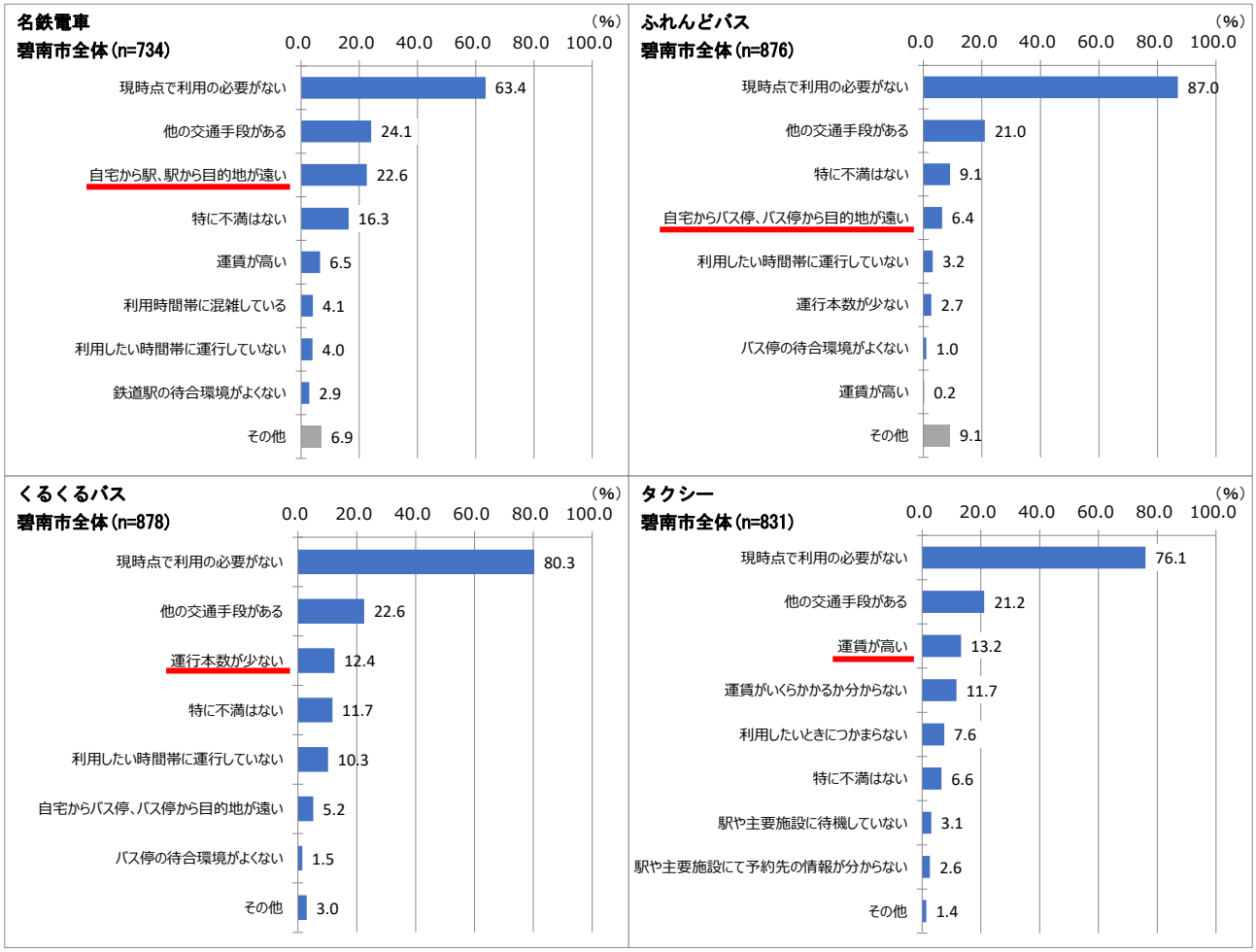
※ “期待する役割項目”の1位を3点、2位を2点、3位を1点とし集計

④公共交通を利用しない理由や不満に思う理由

各公共交通いずれも「現時点で利用の必要がない」が最も割合が高くなっています。

「現時点で利用の必要がない」や、「他の交通手段がある」、「特に不満はない」を除いた場合、名鉄電車では「自宅から駅、駅から目的地が遠い」、ふれんどバスでは「自宅からバス停、バス停から目的地が遠い」、くるくるバスでは「運行本数が少ない」、タクシーでは「運賃が高い」が上位となっています。

図 4-6　公共交通を利用しない理由・不満に思う理由

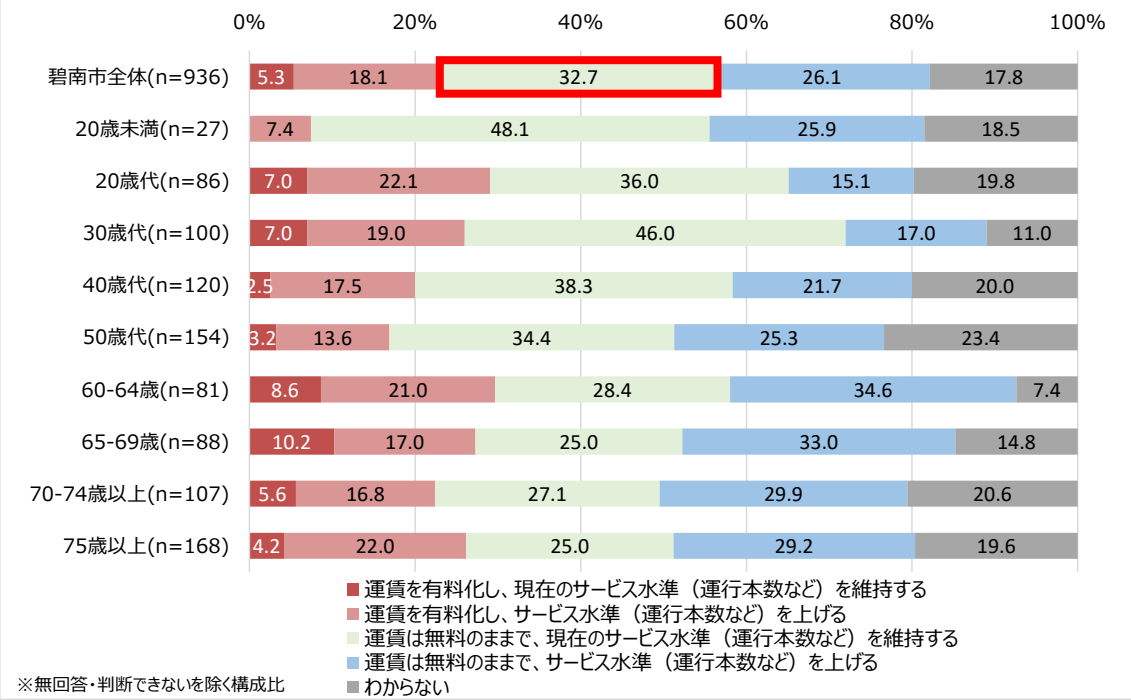


⑤くるくるバスの今後の運行について

単一の回答項目では「運賃は無料のままで、現在のサービス水準（運行本数など）を維持する」が 32.7%で最も多い割合を占めています。

この選択肢の割合を年代別にみると、年代が高くなるほど割合が低くなる傾向があります。

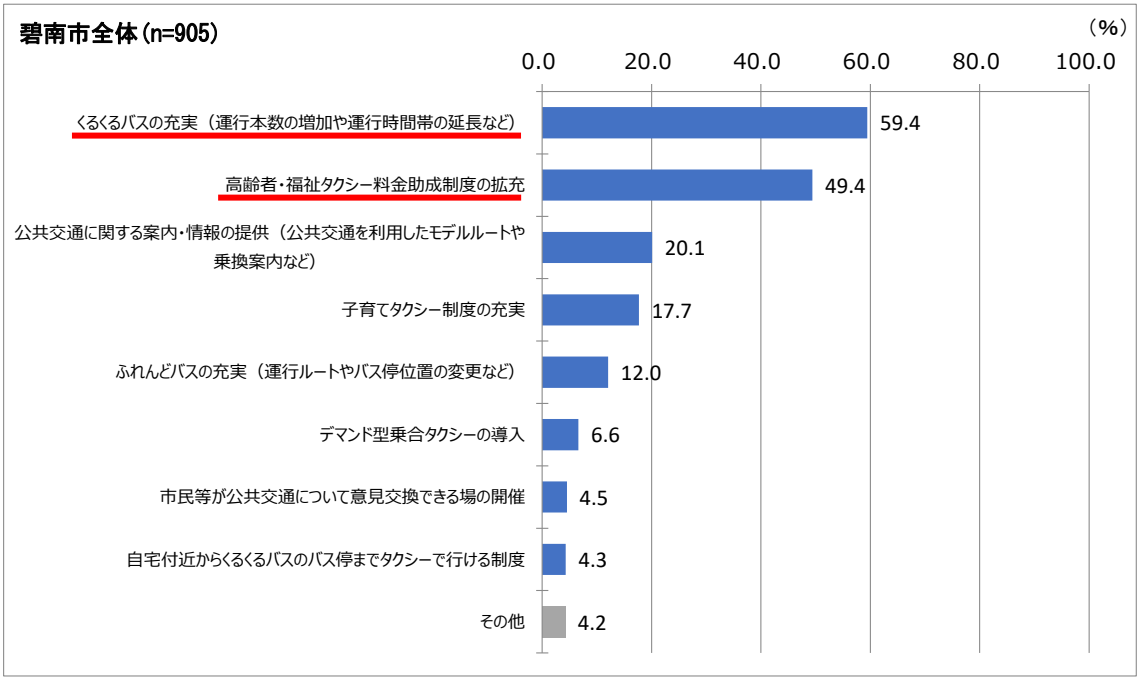
図 4-7　くるくるバスの今後の運行について（市民）



⑥碧南市の公共交通を充実させるための取組みについて

くるくるバスの充実やタクシー料金助成の拡充など、現状のサービスや制度を充実させる回答が多くなっています。

図 4-8　碧南市の公共交通を充実させるための取組みについて

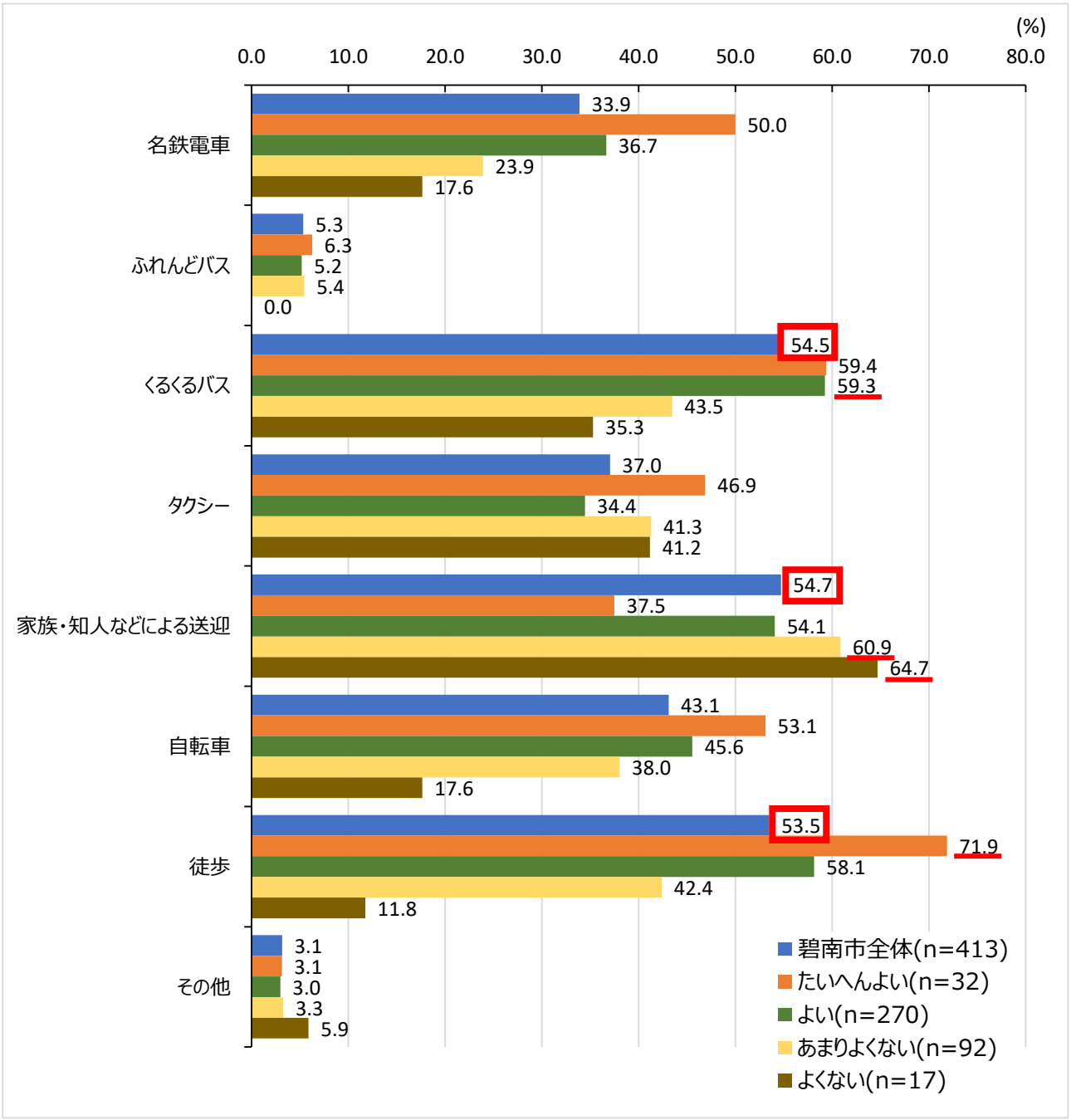


⑦免許返納後に利用したい（利用している）移動手段（60 歳以上の方）

免許返納後に利用したいと考えている、または利用している移動手段について、碧南市全体では「家族・知人などによる送迎」が 54.7%、「くるくるバス」が 54.5%、「徒歩」が 53.5%の順となっています。

自身の健康状態別にみると、“たいへんよい”という人では「徒歩」、“よい”という人では「くるくるバス」、“あまりよくない”や“よくない”という人では「家族・知人などによる送迎」の割合が最も高くなっています。

図 4-9　免許返納後に利用したい（利用している）移動手段

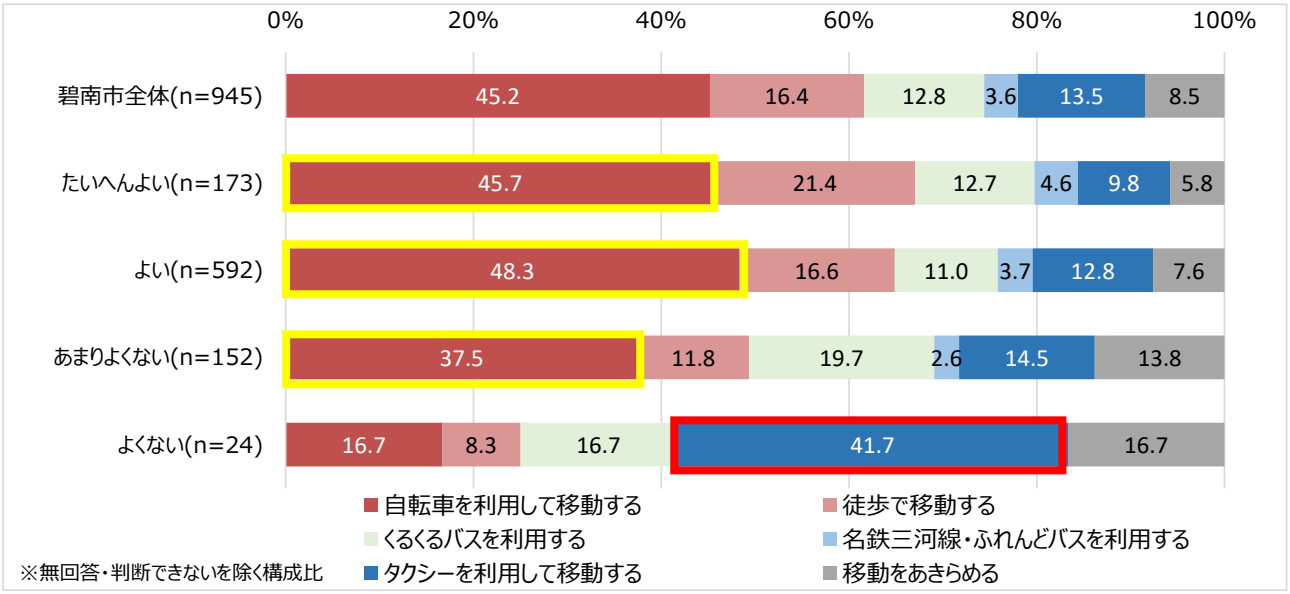


⑧自家用車を利用しない場合の市内での移動手段

自家用車を利用しない場合の市内での移動手段について、自身の健康状態別にみると、“たいへんよい”や“よい”では「自転車」の回答が半数近くを占めています。

健康状態が“たいへんよい”、“よい”、“あまりよくない”までは「自転車」の割合が最も多いですが、“よくない”では「タクシー」の割合が最も高くなっています。

図 4-10　自家用車を利用しない場合の市内での移動手段

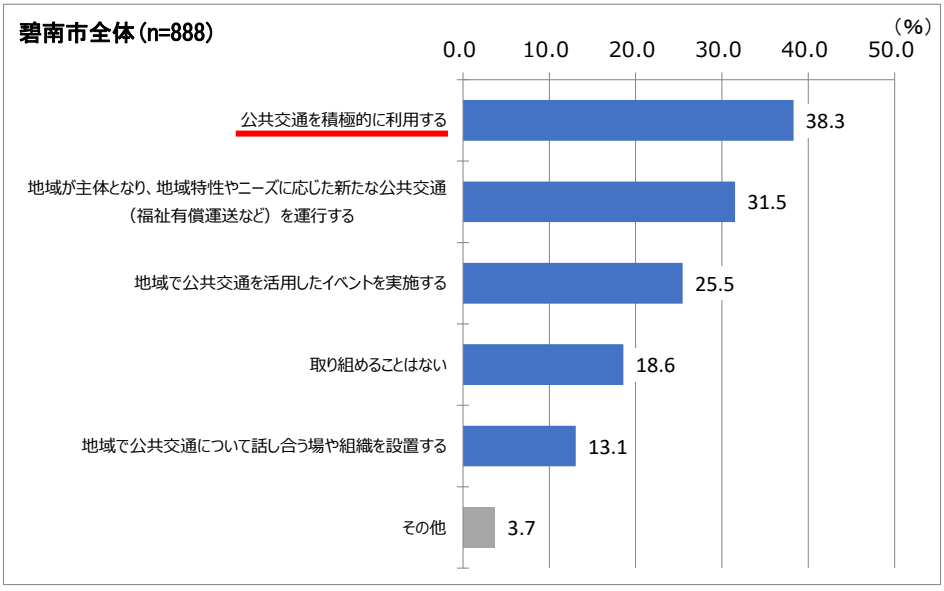


※3㎞程度の市内移動を想定

⑨地域の公共交通を維持するために、あなた自身や地域で取り組んでもよいと思うもの

公共交通の維持のために取り組める内容は、「公共交通を積極的に利用する」の割合が 38.3%で最も高くなっています。

図 4-11　地域の公共交通を維持するために、あなた自身や地域で取り組んでもよいと思うもの



（2）バス利用者アンケート調査

①ふれんどバス、くるくるバスの満足度

総合的な満足度（満足＋ほぼ満足）はふれんどバスが 72.2%、くるくるバスが 68.2%となっており、いずれも不満割合（不満＋やや不満）を上回っていますが、ふれんどバス、くるくるバスともに「運行本数」など、不満割合が高い項目もみられます。

図 4-12　ふれんどバスのサービス項目別満足度

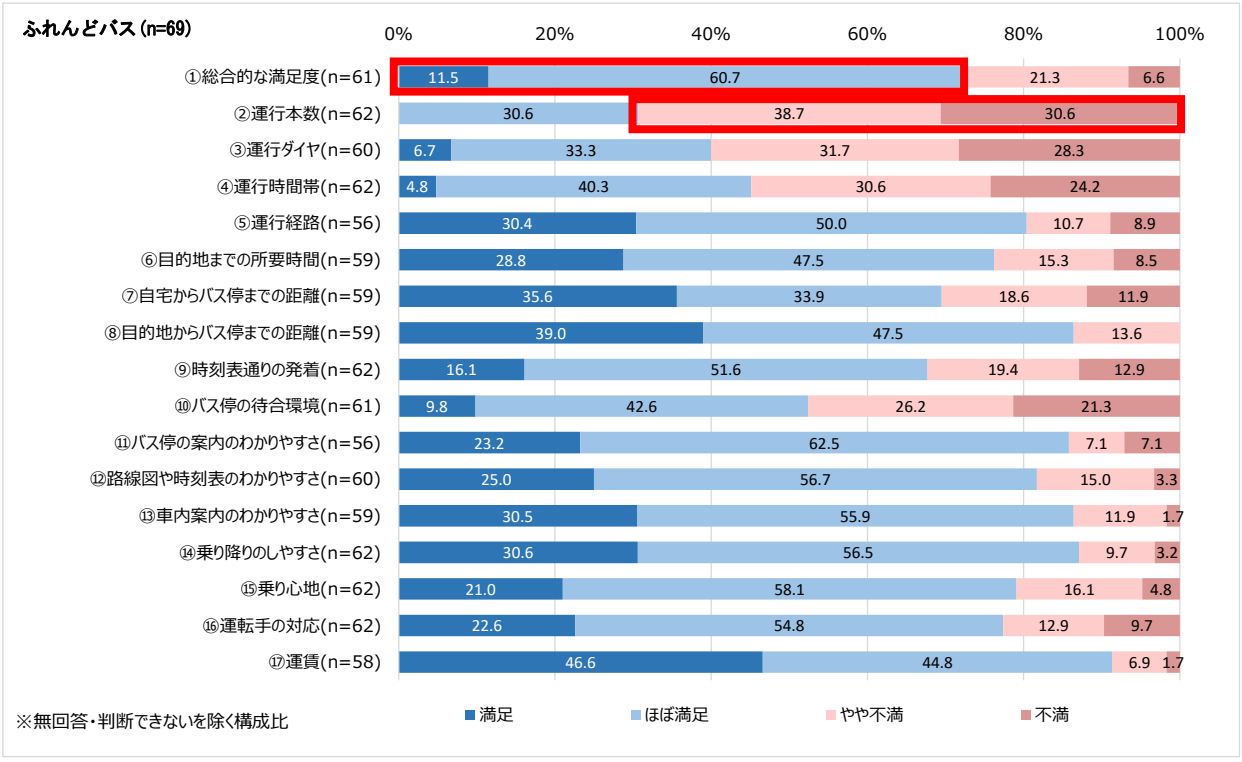
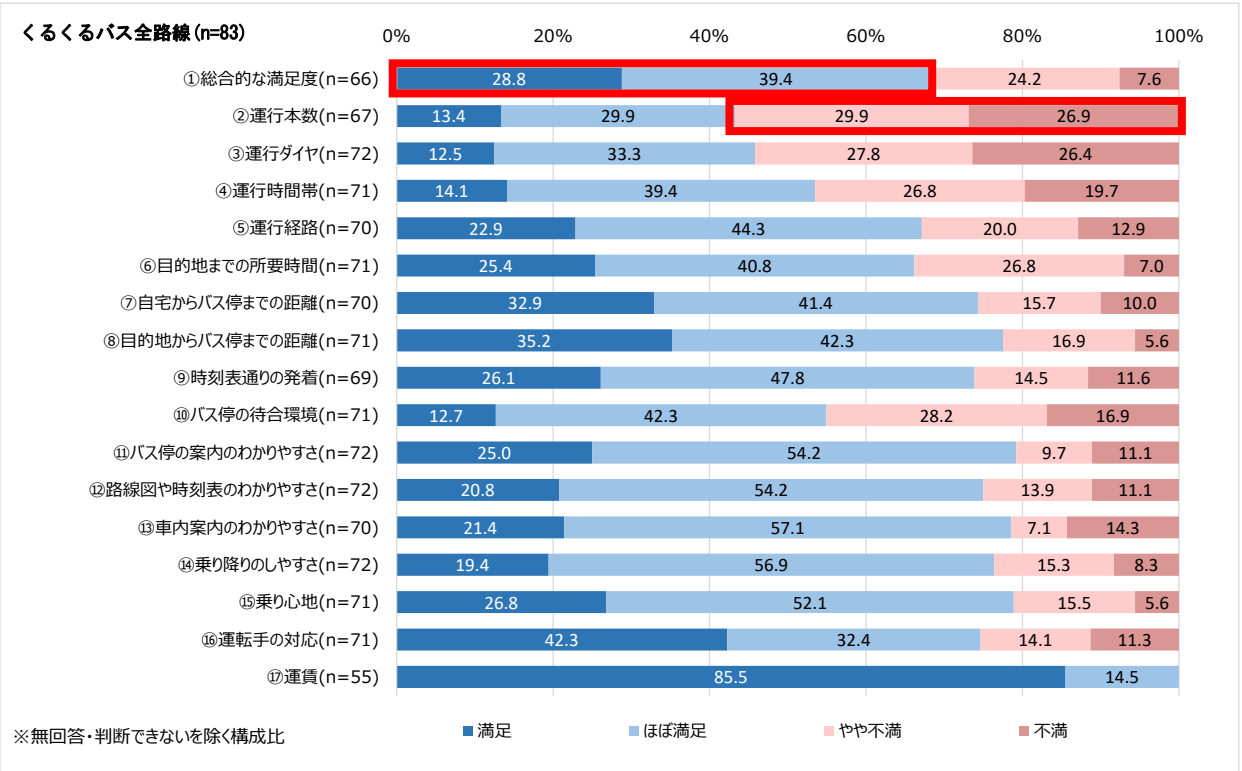


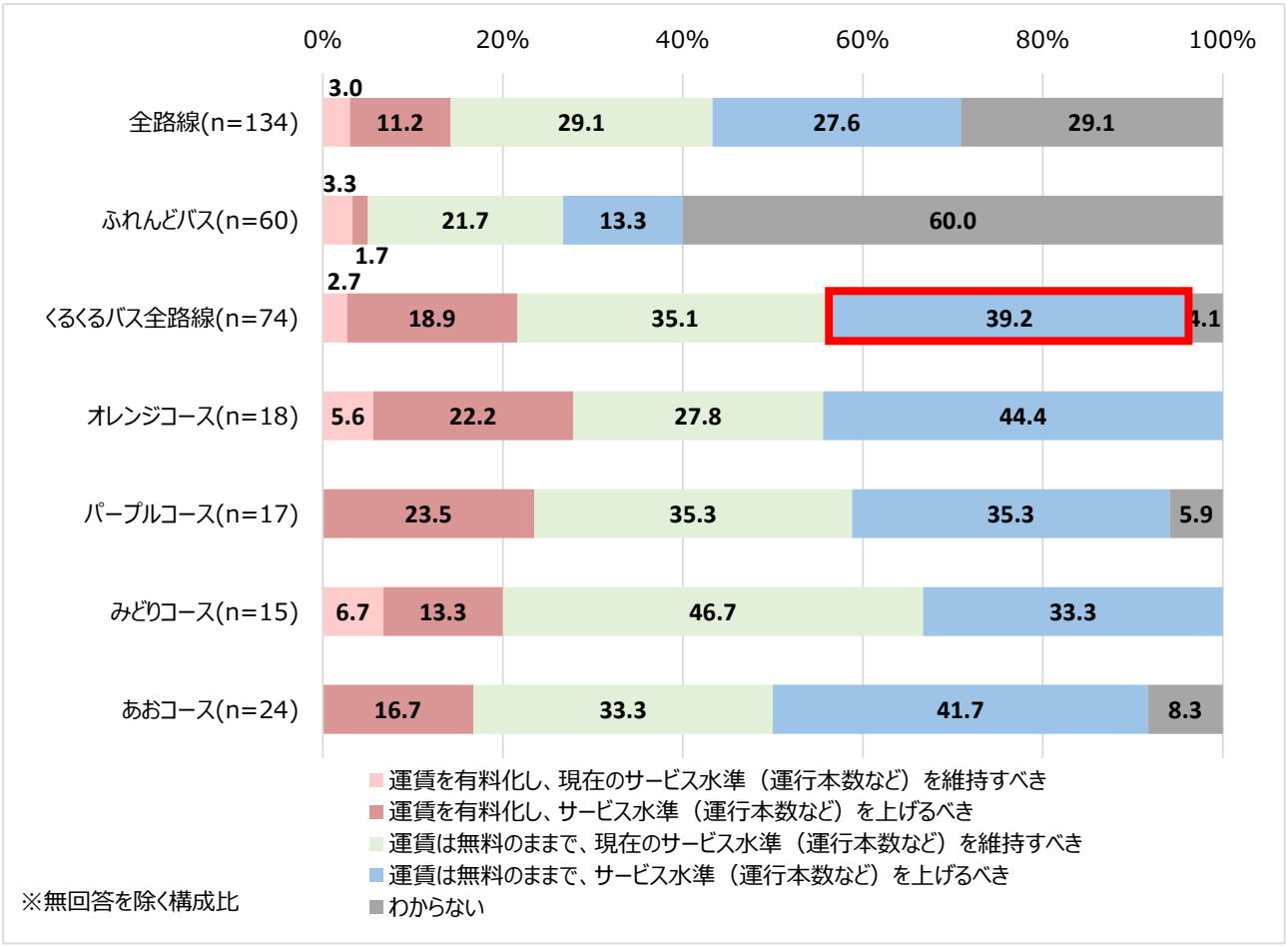
図 4-13　くるくるバスのサービス項目別満足度



②くるくるバスの今後の運行

「運賃は無料のままで、サービス水準（運行本数など）を上げるべき」が 39.2%で最も多く、次いで「運賃は無料のままで、現在のサービス水準（運行本数など）を維持する」が 35.1%となっています。

図 4-14　くるくるバスの今後の運行について（利用者）



（3）バス乗降調査

①利用目的

ふれんどバスの利用目的は、平日では「通学」が 70.4%と主体を占めています。休日においても「通学」が 20.0%で最も多い割合となっていますが、「買い物・飲食」などの自由目的での利用が平日と比較して増加しています。

くるくるバスの利用目的は、平日・休日ともに「買い物・飲食」の割合が最も多くなっています。

図 4-15　ふれんどバスの利用目的

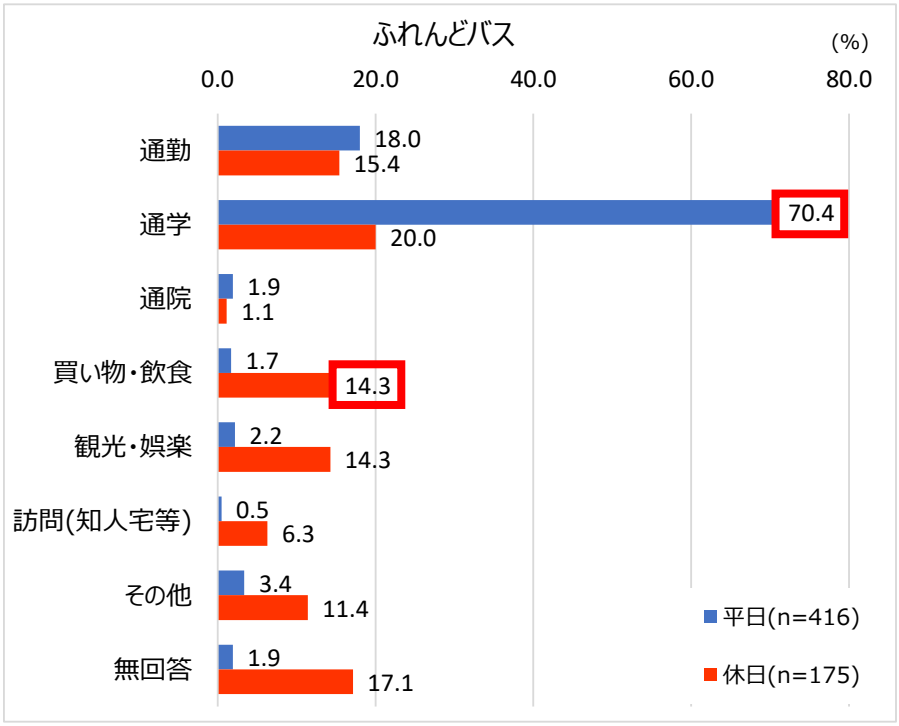
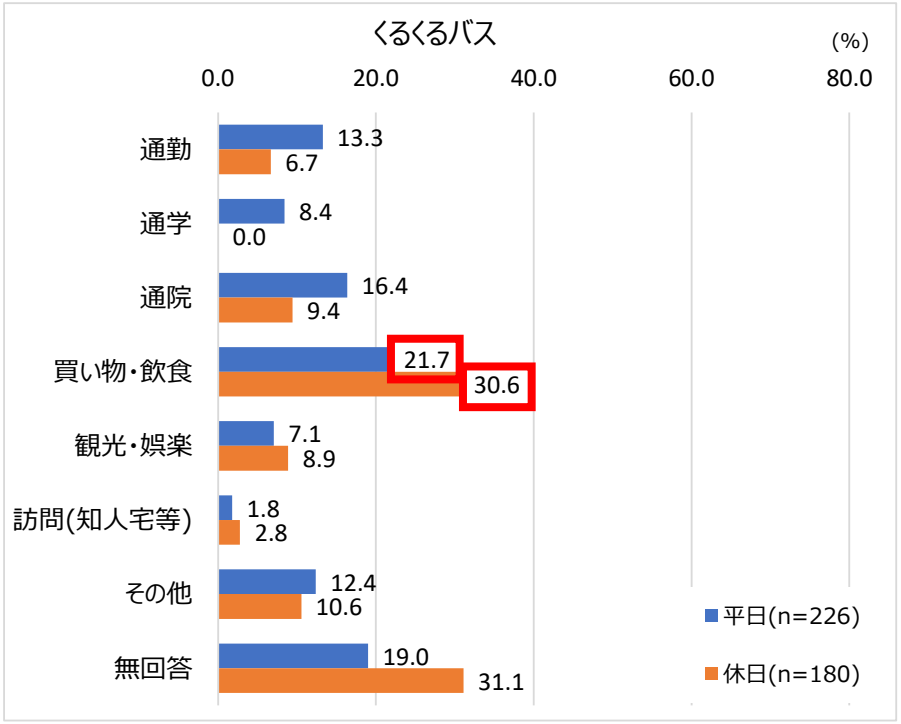


図 4-16　くるくるバスの利用目的

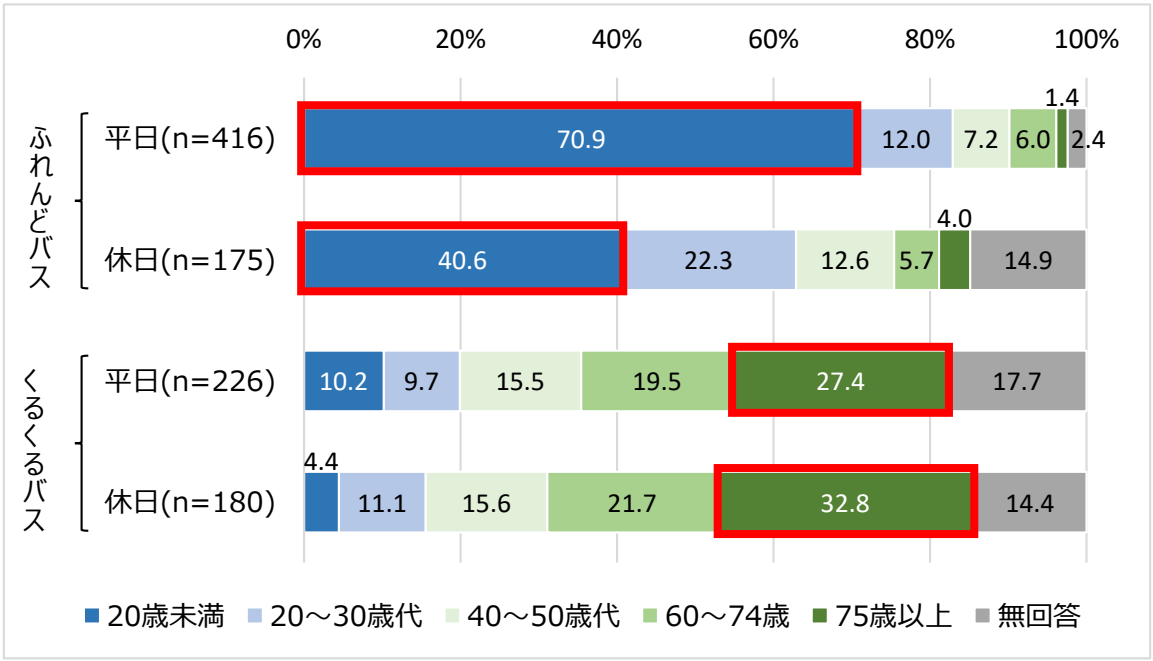


②利用者の年齢

ふれんどバスでは「20 歳未満」が平日・休日ともに最も多くなっています。くるくるバスでは「75 歳以上」が平日・休日ともに最も多くなっています。

くるくるバスは 60 歳以上の利用者が平日では 46.9%、休日では 54.5%を占めますが、30 歳代以下の利用者も平日では 19.9%、休日では 15.5%あります。

図 4-17　利用者の年齢



③利用者ＯＤ*

ふれんどバスの OD は碧南方面・吉良方面ともに、乗車・降車どちらも鉄道駅（碧南駅・吉良吉田駅）や、沿線の高校（碧南高校・一色高校西・吉良高校）の最寄りバス停の利用が多くなっています。

くるくるバスの OD は市役所周辺や東部プラザ・南部プラザ等の行政施設をはじめ、市民病院や鉄道駅を起終点とした移動が多くなっています。

図 4-18　ふれんどバス（平日・碧南方面行）バス停間 OD

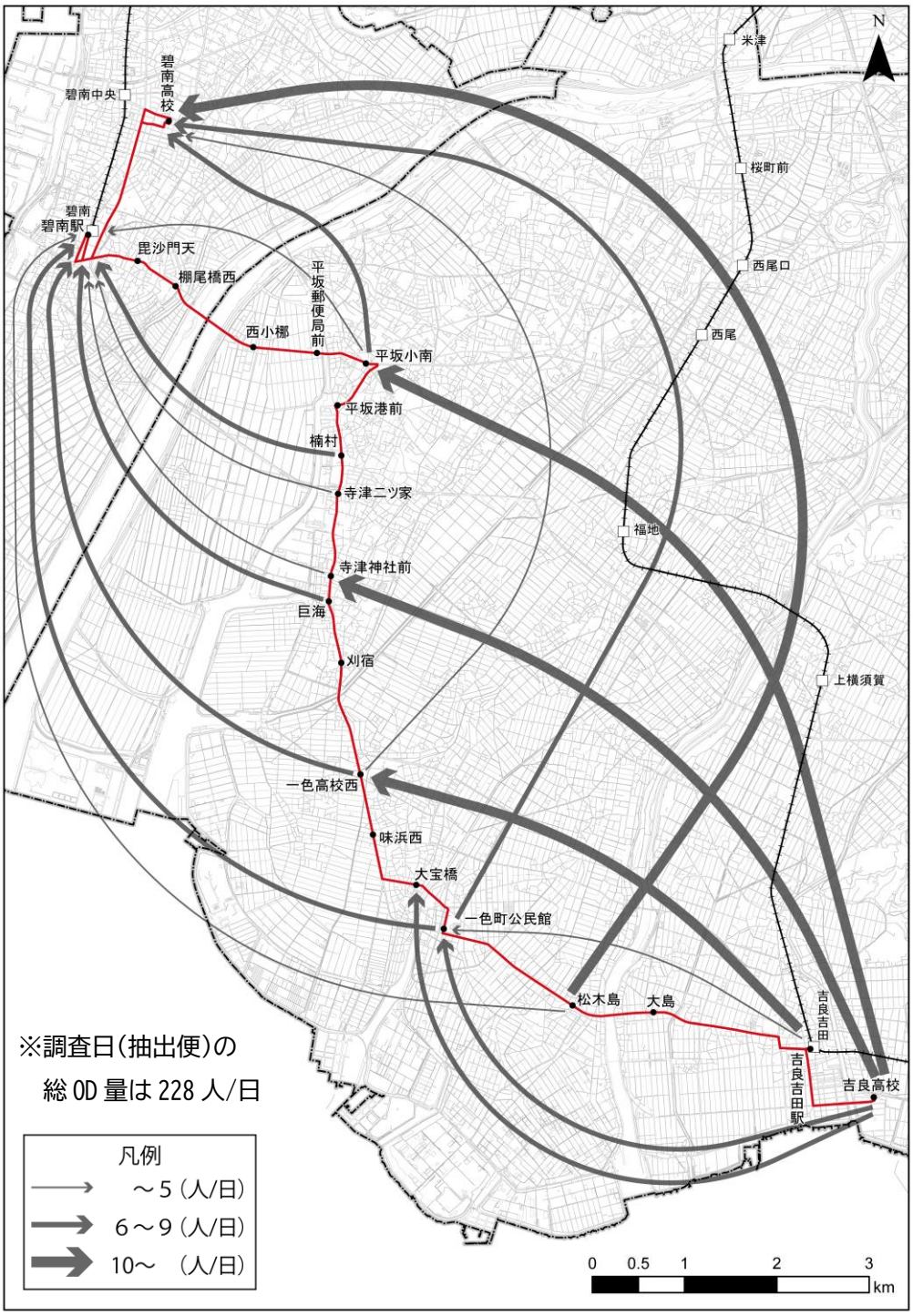


図 4-19　ふれんどバス（平日・吉良方面行）バス停間 OD

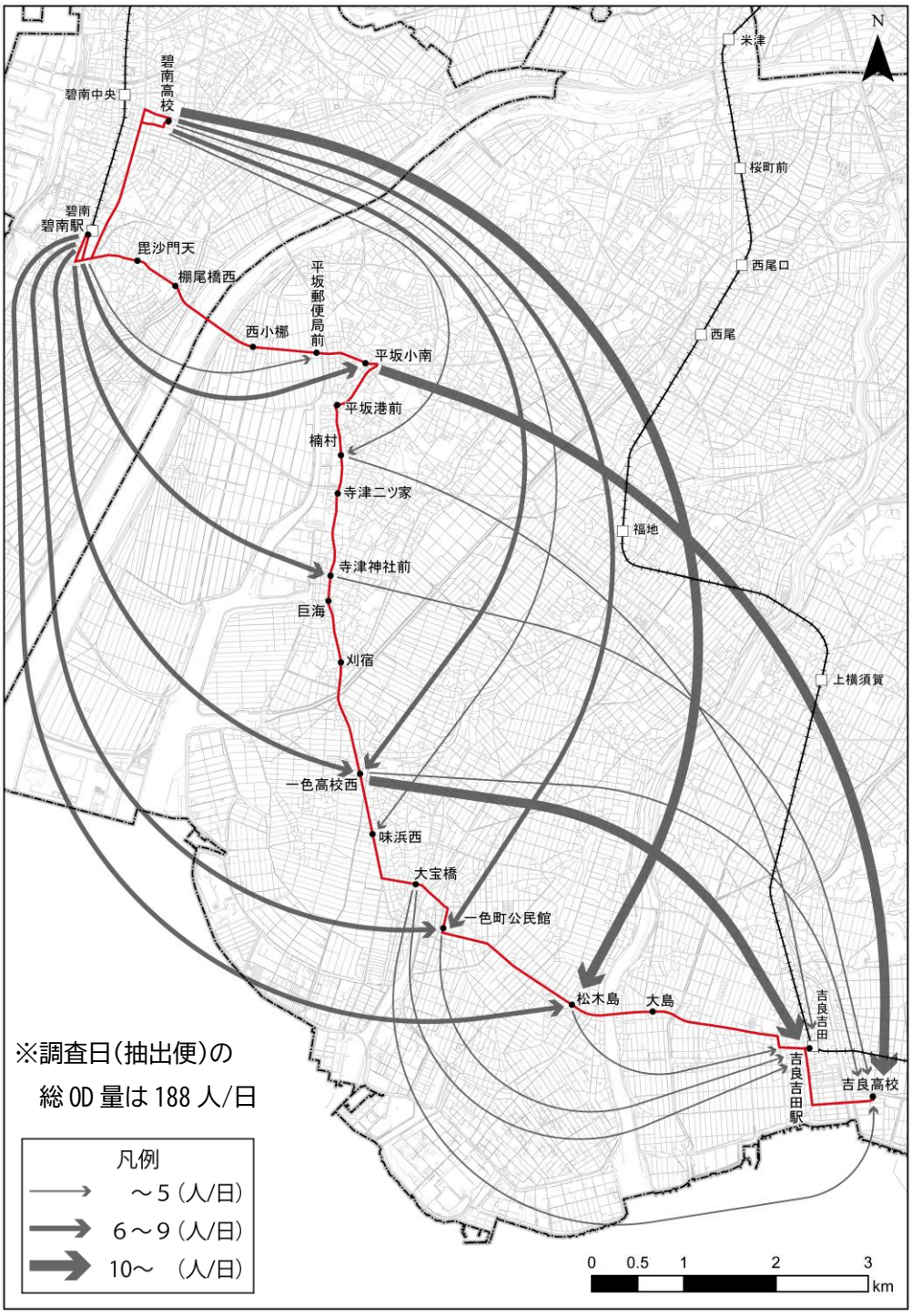
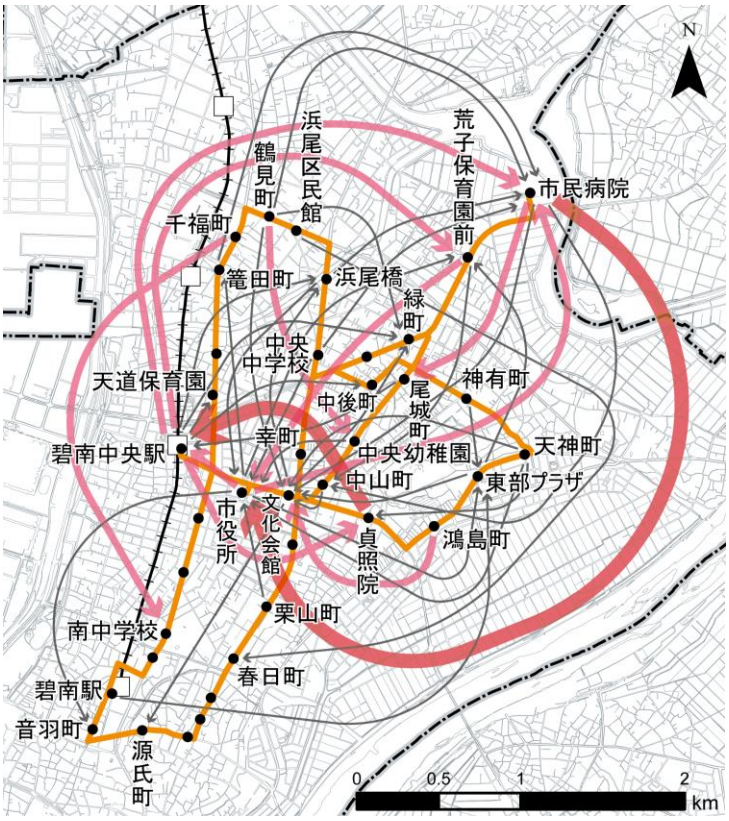


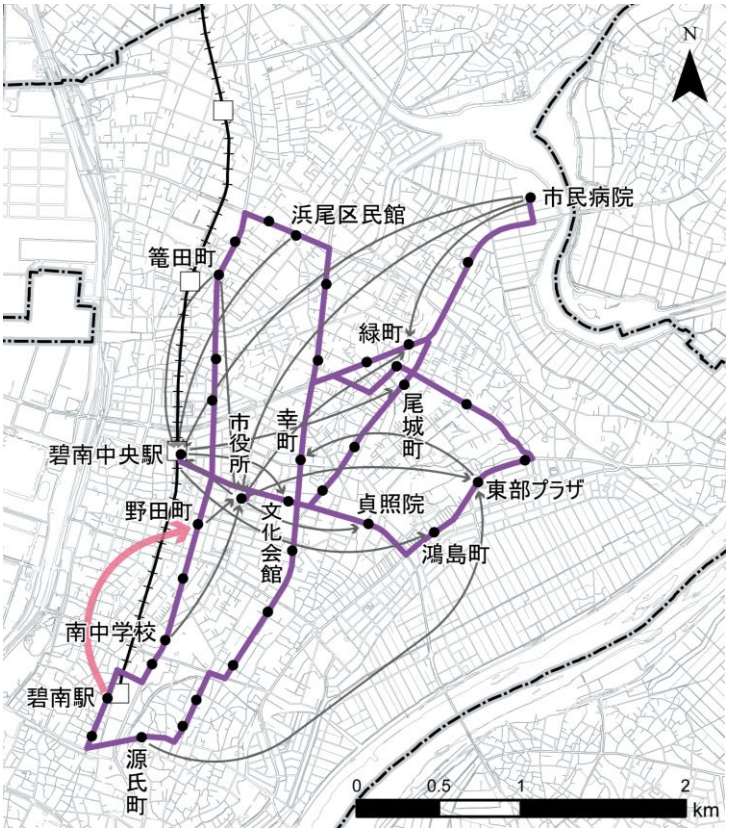
図 4-20　くるくるバス（平日・オレンジコース）バス停間 OD



※調査日(全便)の
総 OD 量は 64 人/日

凡例
1（人/日）
2～3（人/日）
4～　（人/日）

図 4-21　くるくるバス（平日・パープルコース）バス停間 OD



※調査日(全便)の
総 OD 量は 19 人/日

凡例
1（人/日）
2～3（人/日）
4～　（人/日）

図 4-22　くるくるバス（平日・みどりコース）バス停間 OD

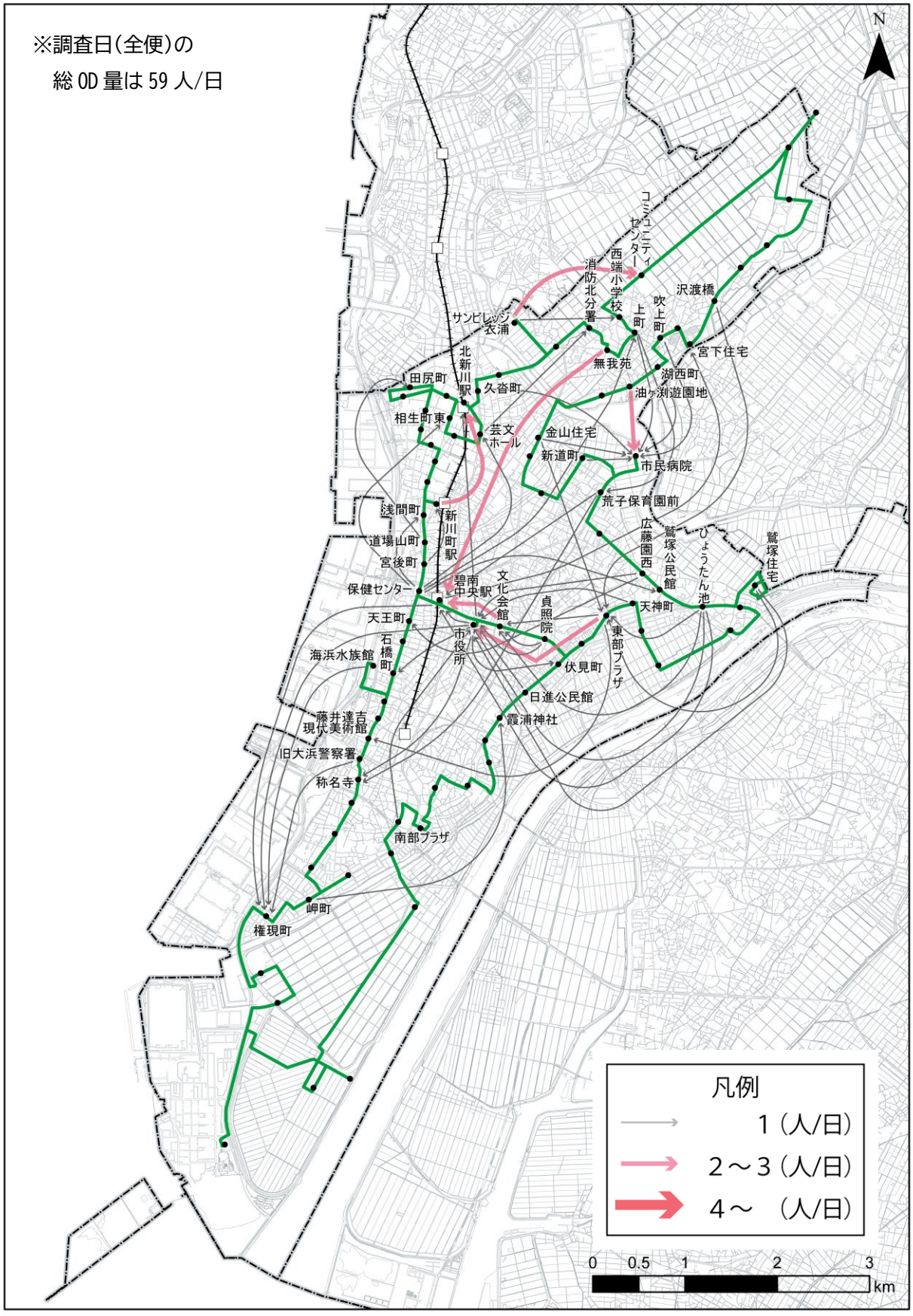
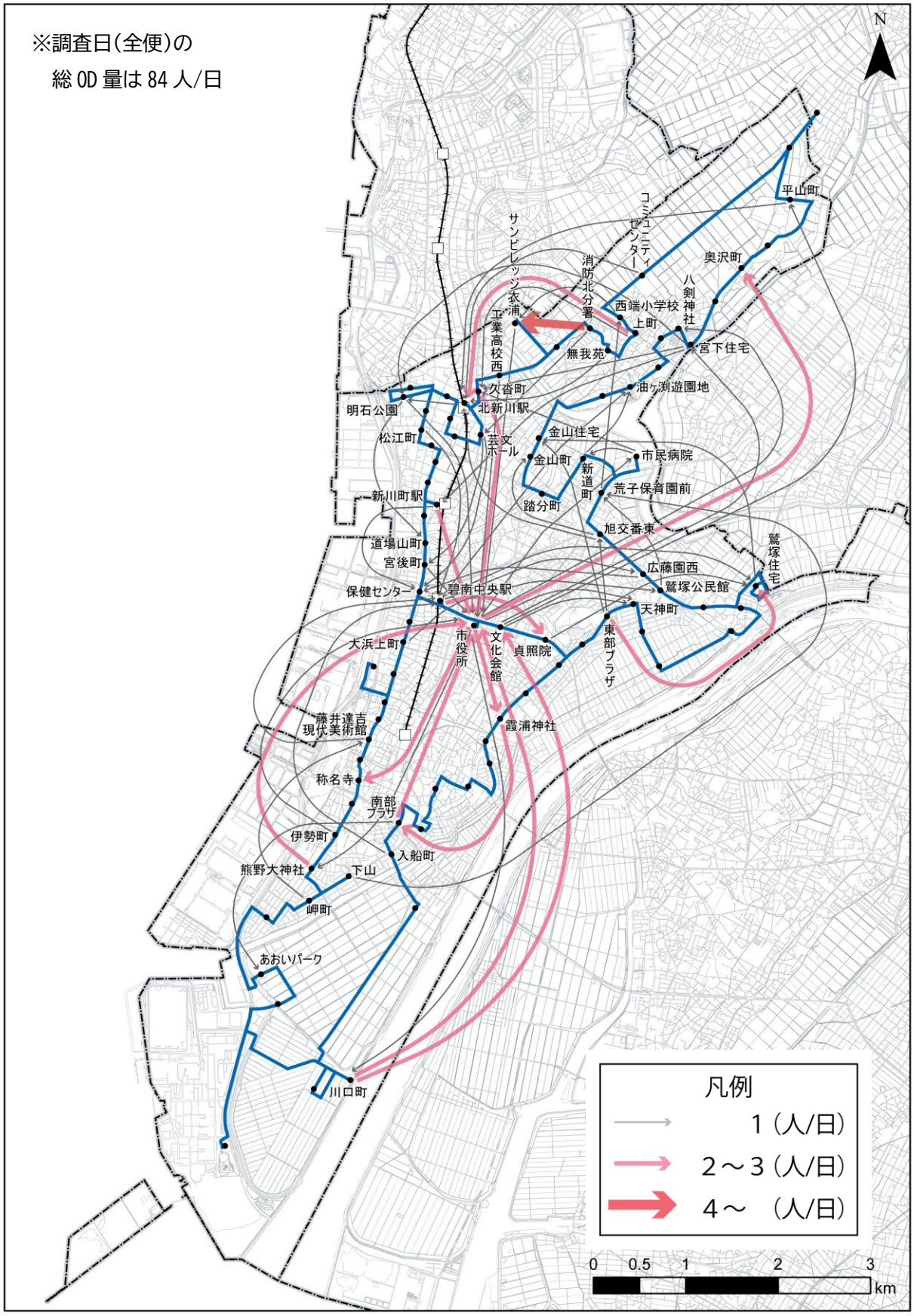


図 4-23　くるくるバス（平日・あおコース）バス停間 OD



（4）交通事業者ヒアリング調査

1．利用者の現状や新型コロナウイルス感染症を踏まえた今後の見通し	
鉄道	・沿線企業の通勤需要が大幅に減少し、コロナ禍前の 70%程度の利用状況で、他路線と比較しても回復傾向が鈍い
バス	・2022 年度はコロナ禍前の 9 割程度まで回復している ・2020 年度を底として、確実に回復傾向にある
タクシー	・利用のピークは 6～8 時と 17～18 時及び 19～20 時 ・2020,2021 年度と比較すると 70～85%程度に回復した ・夜の利用が回復していない
2．利用者や沿線住民から寄せられる意見など	
鉄道	・コロナ禍ではマナーに関する意見が増加した
バス	・碧南高校を始発地とする便の増発により、高校から利便性が上がったとの声を聞いている ・バスがなくなると困るため、運行を継続してほしいとの声が多い ・バス停で待つ際のマナーや周辺の清掃についての意見がある
タクシー	・ジャンボタクシーや介護タクシーの問合せがある
3．公共交通全体の利便性を高める取組み	
鉄道	・エリア版 MaaS*アプリ「CentX」のリリースや、沿線キャンペーン・ハイキング等を実施している（碧南市での実績あり）
バス	・沿線高校の入学式での定期券出張発売を実施している（碧南市での実績あり） ・市主催のイベントへの参加（利用促進イベントの実施） ・バスロケーションシステム*の導入による利便増進
タクシー	・乗車需要を満たすことができるよう乗車傾向等の分析を実施している ・運賃についての問い合わせが多いので、運賃に対して安心感があれば利用が伸びる可能性がある
4．その他	
バス	・碧南駅～碧南高校間での新規バス停の設置を提案
タクシー	・福祉交通の利用案内等について行政と連携

（5）地区ミーティング

【C・S地区ミーティングで出された公共交通に対する主な意見】

- バス停前にガードレールの切れ間がなく、車道側に出てバスを待つ利用者がいて危険
  バス待ちスペースが全体的に小さいのではないか
- 免許返納後の高齢者や足の不自由な人、交通の便が悪い地域の人、外国人等に便利に使ってもらえるものにしてほしい
- 乗車料金が無料なことはありがたいが、本数が少なければ使い勝手がよくない